4 質の高い教育をみんなに

11 住み続けられるまちづくりを

# 移動図書館 らぶれた一号

## 身近に本がある街づくりを

引き続き新型コロナウイルスの影響で、子ども達の遊びが制限されてしまっていた今年度。その中で、移動図書館を使って、子ども達にとって身近に本があることがある意味を考えてきた。

# 地域の居場所作り

相変わらず地域のイベントなどが中止となることが多い1年だったが、5月に八王子で古本を取り扱っているノースブックセンター様より約800冊の絵本の寄付を受け、これを最大限活用することを念頭に下記のような活動を実施した。
まずは図書館車内の本を刷新し、寄付された本をたくさん積むことができた。車体はいつものように藤野倶楽部に停めさえてもらい、誰でも自由に出入りして借りられる形を継続した。いくつかの本は同じものが被っていたので、こうした本は近所の保育園に寄贈して活用してもらうことにした。
また、地域内の小さなイベントでは子ども達向けに本のプレゼントなども行い、より多くの子ども達が日々の生活の中で本に触れる機会を増やせるようにしてきた。その中で、中高生が小さい子に読み聞かせを行うなど、嬉しい光景も見ることができた。来年度こそ、もっとたくさんのイベントが実施できることを願っている。

## 2022年に入りコロナの状況に変化の兆しが

そんな願いが届いたのか、年が明けて春が近づくにつれてコロナの影響況も少しずつ緩和される傾向が目立つようになってきた。ここ2年の間中止となっていた地域のイベントが3年ぶりに開催されることが決まったり、屋外での小規模なイベントがポツポツと実施されるようになってきたのだ。
相変わらず人々はマスクをしているが、小さな子ども達は屋外ならいいかという空気にもなってきたこともあり、これから暖かくなるにつれて様々なイベントが開催される期待が高まっている。
みんながマスクを外してイベントに参加できるようになり、多くの子ども達の笑顔が報告書に載るよう活動を継続していきたい。

# Local action with Covid-19

**環境が変わったからこそ、新しい形の取り組みを始めるチャンスに！**

**地域の子ども達が求めることは何か、ちょっとした秘密基地的な要素を増やしていきたい**

## 地域の中の自由な場所を担保する

移動図書館の取り組みは、これまでのところ実験的な要素が強い。利益を生み出そうとか特別大きなことをしようという意図もなく、地域の中に自由に出入りできる図書館車を置き、それを地域の子ども達がどう使うかを眺めているという感じだ。そして、そこで起こる出来事は自分達が想定していること以上のサプライズがあり面白い。特に貸し借りのルールを使う人たちが勝手に決めてくれたり、ノートや鉛筆削りなどを用意して自分達で運用してくれるのは新鮮だった。
また、子ども達にとっては漫画本が置いてあることが地域の図書館にはない楽しみなようで、本当に多くの子ども達が借りて行ってくれている。
漫画や本など、家に置いてあるものもしばらく読まずただ置いてあるというものも多いだろう。そういった本を地域でシェアし、内容などを話せる相手が増えるというのも、また新しい楽しみ方かもしれない。

## 子ども目線で運用できる機会作りを

もう1つ、移動型図書館をやっているとコアな子どもユーザが来てくれるようになる。つまり図書館車の大ファン、お得意様である。
こうした子ども達は、小学校高学年の10歳前後で、親から離れて自分で何かを楽しめる年代だ。ちょうど親離れをし始める頃なのだろう。家の前に図書館車が来ようものなら、一日中でもそこにいて本を読み続けるような子どもが何人かいるのだが、そんな子ども達がただ本を読むだけでなく、図書館車の運用に関わってくれるような取り組みを作ってみたいと考えている。移動図書館の子ども館長さんとして、様々な企画を考えてもらったり、取り入れたい本を考えてもらったり、子ども目線で運用していく機会をもっと増やしていきたい。